

# I B C 番組審議会月報

2004年5月31日 73

I B C 岩手放送

## 第488回番組審議会・議事概要

日 時 平成16年5月25日(火) 午前11時～12時30分  
場 所 I B C 放送会館 大会議室  
議 題 テレビ「I B C 特集2004」  
菊池幸見の方言探訪「じゃじゃじゃ」と「ばばば」  
について

委員総数 14名

出席委員 10名

石川 桂司委員長

藤原 正紀副委員長

阿部 价男委員 熊谷 志衣子委員 小苅米葉子委員

坂田 裕一委員 佐藤 潤次郎委員 米谷 春夫委員

矢佐 俊幸委員 山崎 文子委員

欠席委員 4名

小松 務委員 中原 志郎委員 三浦 宏委員

吉沢 正則委員

I B C 出席者

小西社長、阿部専務、佐藤常務、川島編成局長、  
井上技術局長 村上報道制作局長、中村制作部主任  
金谷番審事務局長

## 菊池幸見の方言探訪「じゃじゃじゃ」と「ばばば」

## &lt;委員の主な発言&gt;

方言の伝わり方を掘り下げていくと非常に面白い研究になりそうです。ここでストップではなく、子供達に伝えていける内容だと思いました。伊達藩と南部藩では違うのではないかという仮説に基づけば、一関、水沢など内陸部ではどう使われているのかも知りたかった。

本当の方言が聞けなかった。「じゃじゃじゃ」「も」「ばばば」も言わせた言葉しか聞こえなかったので、本当のところを拾って欲しかった。

親しみとかゆとりとか、感動の場面が多くなると方言が残っていくのだろうと思います。それがいいから方言が廃れていくのでしょうか。

今回は藩域という区分けの中で整理をしてきたわけですが、江戸時代に成立した言葉か、それ以前であるかというとらえかたによっても違うのではないかと思います。

柔らかくて響きのきれいな東北の言葉も沢山あるということを若い人達にわかってもらえるような番組を是非企画していただきたい。

岩手に赴任して4年、いまだにお年寄りの言葉が理解できずに困っていますが、番組内容は興味深く、非常に勉強になったと思います。

カルチャースクールのような感じで言葉の勉強の入門篇という意味にとらえました。とても良かったので是非続編をお願いします。

楽しい番組にするのであれば、もっときちんと計算して、楽しさのレベルを揃え、無理にアカデミックなことは出さない方がいいと思います。素材としては興味深く面白いものでしたが、地域性、時代性、場面性などの切り口があいまいなまま雑多に出てきたという感じを持っています。

## &lt;局側&gt;

スキットに関しては、どんな場面で「じゃじゃじゃ」と「ばばば」が

使われるのかということをはっきりと明らかにするために場面を最初から想定しました。帯の会にもかまけし座にも同じ文章をそれぞれの言葉でやっていただきました。演じる方のレベルが違うのは仕方ないと思います。このネタ自体が「じゃじゃじゃTV」の中の方言探訪という特集シリーズの中から生まれています。最初にやったのが11月だったので稲刈りの場面が登場しました。その点、違和感があったと思います。「じゃじゃじゃTV」には生放送のノリがありますが、今回、IBC特集ではそのノリがなくなって、つなぎの部分を見アウンサーの桜の場面や、地図の場面をつないでしまったため、生放送の部分と静かな場面との落差が生じ、私の技量不足も含めてぎくしゃくした感じになったのかと思います。

方言についてどのように考えるかは、テレビが駆逐していった方言をもう一度掘り起こし、テレビだからこそできることをやっていかなければならないと痛感しています。

普段、気がつかない土地の方言を発見する驚きを岩手の人みんなに伝えていきたいし、大阪人などがその言葉にプライドを持つように、自分たちの方言を面白がることから始めてみて、その中からまた別のものが見えてくるのではないかという視点でやらせていただきました。

IBC特集は1時間番組の月1回ということで、4月にスタートしました。制作と報道が交互に作る形です。回を重ねるごとに深い取材がどんどん出来る番組が出てくれればいいなと思っています。温かい目で見守っていただきたいと思います。